

【姫路市立東小学校】の取組

「ICTを活用した新しい時代の学び」に関する研究

～Chromebook を学習道具にする～

1 取組の背景

本校は児童数 261 名、学級数が 14 クラスある。研究協力校となった令和 3 年度当初の東小学校は、児童は Chromebook を画像や音楽の検索をしたり、ゲームをしたりと「遊びの道具」として認識している児童もいた。教職員は ICT 活用について苦手意識があり、「授業でどう使えばいいのか分からない。」「授業中に遊んでしまわないか心配。」と消極的な声が多く、活用が進まない状態だった。そのような状況だったので、児童にとって「Chromebook を学習の道具にする」ことを目標とした。

このような実態を踏まえ、「ゆっくり」「でも着実に」「児童も保護者も含めみんなでやる」ことをテーマにし、その上で、「持続可能であること」「トライアル&エラーを続けること」「誰もが win-win になること」を共通理解して進めた。

2 主な取組

(1) 授業での活用

① 授業での活用習慣作り — 専科教員を中心に—

教師が「ICTを活用する」となると、各教師の得意不得意で、児童の使用機会に差が生じることになる。そこで、担任が活用するのはもちろんのこと、専科教員を中心として授業で活用する機会を作れば、どの学級でも授業での活用習慣が身につくのではないかと考えた。

その中で、「児童が好んで活用したもの」「教師がゼロからでも取り組みやすいもの」から、4つを紹介する。

(ア) 教師が動画を見せる (手本動画)

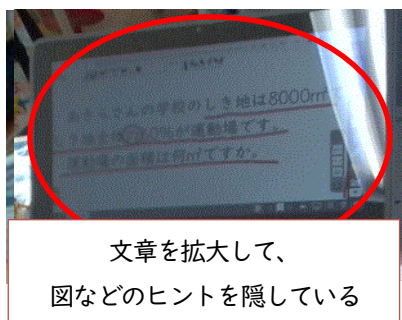
右の写真では、音楽の専科教員が鍵盤ハーモニカを演奏する手元を写した動画を児童が観ながら練習している。

この児童は動画を自分に合った速度に変え、好きな場所で止め、何度も練習していた。その間に、教員は他で困っている児童の支援ができた。



- ・自分に合わせた速度にする
- ・途中で止める
- ・わからないところを何度も観る
- ・それでもわからないところは先生にきく

(イ) デジタル教科書を毎日使い、使い慣れる



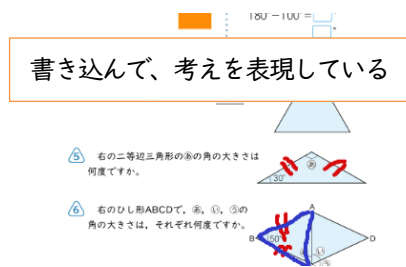
文章を拡大して、
図などのヒントを隠している

紙の教科書と同様に毎日使っていく中で習慣化された。その中で、デジタル教科書で児童がよく使う方法があった。それは、「情報量を減らす、隠す」「書き込んで考える」だった。

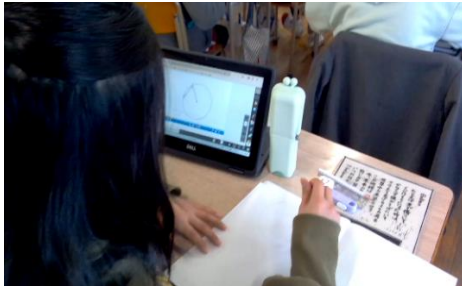
情報量を減らすために、教科書を拡大してヒントとなる図を見えなくしたり (左写真)、図となるヒントを拡大し、それをもとに言葉は自分で考えたりと、児童一人ひとりが自分で調整

しながら課題を進めることができた。

また、右図のように、デジタル教科書のページに自然と自分の考えを書き込むようになった。紙の教科書と違い、書いてもすぐに消せる手軽さから、書き込みやすくなったと考えられる。



(ウ) デジタル教科書を先生にする



デジタル教科書には、動画等で説明が入っているので、それを参考に学習することができる。例えば、左写真は、正六角形の作図方法を観ながら、自分で作図している。教師がそばにいても、自分にあった機能を選び、自分のペースで学習でき、しかも何度も観ることができるので、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。

(エ) スクリーンキャストでアウトプットする

スクリーンキャストとは、「画面操作の様子や音声を動画撮影しながら、撮影者の顔も窓で表示できるアプリ」である。

外国語でスライドとスクリーンキャストを組み合わせ、英語で人物を紹介したり、算数でJamboardとスクリーンキャストを使って、複合図形の解き方を説明したりして活用した。

Chromebookを持ち帰り、家庭学習で取り組んだ際、児童は「納得がいくまで撮り直すことができた。」や「画像を指し示したり書き加えたりと相手に伝わるように説明する意識ができた」と話していた。教師にとっても、児童の録画を確認し状況が把握できるので指導や評価に役立てることができた。

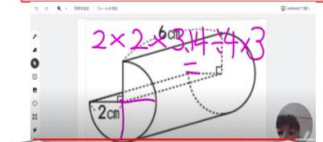
こうして専科教員を中心に取り組むことで、専科の授業の中でChromebookの基本的な操作を身につけることができ、授業での活用に大きな差がなく使い慣れることにつながった。



スクリーンキャスト×スライド



スクリーンキャスト×Jamboard



② 毎日開く機会を作ること

授業での活用を進めることに並行して、毎日開くために、Classroomを連絡帳として使った。保護者にも啓発し、段階的に移行していった。

低学年→連絡帳に書く
中学年→classroomに連絡事項を載せ、それを連絡帳にうつす
高学年→classroomに連絡事項を載せるので、基本的に連絡帳は書かない

③ 「今日の振り返り」での活用

高学年では、毎日、「今日の振り返り」にもChromebookを活用して、スプレッドシートに入力している。友達と共有もできるので、友達のことを知るきっかけにもなった。

学年末の節目にも、一年間を振り返る時の参考になる。

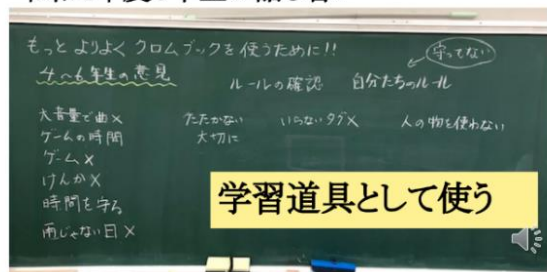
個人懇談会	個人懇談会	個人懇談会	個人懇談会
7日(木)	8日(金)	11日(月)	12日(火)
今日のめあては「テストで自分の全力を出し切ろう。」テストで曖昧な回答になっていたところがあったので、テストが終わったら復習を頑張りたいです。	今日のめあては「テストを全力を出し切ろう。」テストであまり解けなかったけど、次に活かそうと思いました。自習で見直したいです。	今日のめあては「切り替えをしよう」算数の単元「表に表そう(2)」でたくさん発表できたそしていろんな表で式の表し方が違うことがわかりました。総合の時間では、ユン先生の話聞いてよかったです。	今日のめあては「[目録]でたくさん書きかけ観察する。」です。[目録]でたくさんかけた。自分の苦手なところがあった。そして[目録]の復習ができた。
今日のめあては「成果を発揮しよう。」テストで成果を発揮することがあまりできなかったけど一生懸命テストに取り組んでよかったなと思いました。	今日のめあては、「成果を発揮しよう。」漢字テストで一生懸命頑張ったけど100点を取ることができなかったので自主学習とかをしようと思いました。	今日のめあては「一回発表する。」一回も発表することができなかった。	今日のめあては「[目録]に鑑賞をいっぱい書く。」図工の時間がかかってしまったのでいっぱい書きかけた。

(2) 東小ルールづくり

学習での活用を進める土台として「ルールづくり」も進めた。当時、Chromebook が「遊びの道具」であった中、誰がルールを作るのか、授業で話し合った。児童が「自分たちで話し合い作り、自分たちで守っていく」ことが一番望ましいと考えた。

ルール作りの実際 6年生

令和4年度6年生の話し合い



習の道具として使う」ことになった。

続いて令和5年度、「学習の道具として使う」ことを前提に、再度、全校児童と保護者にアンケートをとった。右図のような課題が出て、解決するために6年生で話し合った。

その中で、反対意見にも耳を傾けながら、考えを集約していく、その過程に価値を感じた。

完成したルールは、6年生が各クラスでスライドを使いながら伝えた。

令和4年度、4～6年生に Chromebook の使用のアンケートを実施し、回答結果をもとに話し合ったところ、現状の使い方を心配する意見が多く出た。

姫路市教育委員会から出されている「端末の利用のルール」にある「端末は学習のために使います」という一文も拠り所にながら、話し合い「学

令和5年度6年生の話し合い
全校児童と保護者にアンケートを実施

困っているところ(1年生)
・兄弟に勝手に背景やアイコンを変えられてしまう。

困っているところ(保護者)
・家でずっとタブレットを触っている。
→持って返らないでほしい

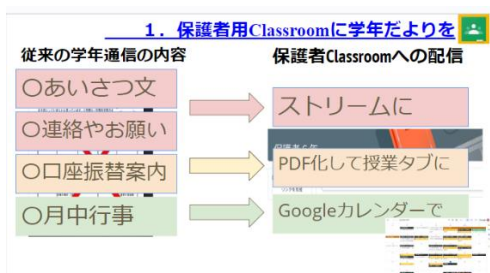
解決しよう!

令和5年度 決まった東小のルール

- ① 授業以外で使えるのは、昼休み
- ② 画面の背景やアイコンは、最初のままにする
- ③ 学習に関することか係活動
- ④ 家で使う時のルールはお家の人と相談する

(3) 校務での活用 —業務改善につなげる—

① 学年だよりをデジタル配付 ～保護者 Classroom を通して～



紙媒体の学年通信をデジタル配付に移行するため、保護者用 Classroom を作成した。保護者は該当する学年の Classroom に参加している。Classroom にした理由は、教師も児童も一番使い慣れているため、保護者が困った時も手助けがしやすいと考えたからである。

② 集まらない研修、研修の資料を残す

ICT支援員のサポートのおかげで、ICT活用で困り事は相談して解決できた。その中で職員に共有することが有用な情報は、職員用 Classroom で情報を残している。必要な時に、何度でも確認できるのが魅力である。

ICTのミニ講座

📄 ダウンロードの不可設定講座

📖 図工の作品収集方法のミニ講座

3 変容

(1) 児童の変容

- 毎日 Chromebook を開く習慣ができ、学習の道具として使うことが定着した。
- 授業中、自分の理解度や課題に応じて、主体的にデジタル教科書の中から必要な部分を選び学習にいかすことができた。
- 自分たちで作ったからこそ、ルールを守る意識が高まった。よりよく使えている。

(2) 教師や学校の変容

- Classroom に ICT 活用のための資料が蓄積でき、今後も必要な時にいつでも使えるように Classroom やドライブをデータバンクとして活用しようとする意識が高まった。
- 授業で活用するイメージ、また校務での効率化を図った活用のイメージが具体化されてきた。

4 東小学校が目指す「ICTを活用した新しい時代の学び」

ICT 活用によって、児童一人一人がそれぞれの課題に向かって、学習活動に取り組む姿が見られた。教職員も少しずつ活用を進め、学校としての財産もデータで共有し残すことができた。来年度以降も、この2年間の取組がベースになるはずである。ルールについては、毎年話し合うことでよりよいものにアップデートしながら引き継がれていくことになる。それが伝統になればと考える。また、次年度はさらなるペーパーレス化を目指していきたい。

今後も、職員一同、児童の学習や生活がより豊かになるように、さらなる活用方法を模索していきたい。

今後について(現5年生が中心)

